



ホームページアドレス <http://www1.com.ne.jp/~mizumaki>

発行・カトリック水巻教会

編集・広報委員会

遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3

〒807-0025

TEL 093(201)0680 FAX(201)7354

第327号

## 前に進もう マヘル神父

残暑お見舞い申し上げます。長い夏が、続いています。

皆さんいかがお過ごしでしょうか？

教会のスケジュールが、9月から始まりま  
す。皆さんは、どれかのスケジュールに参加  
すれば良いと思っています。私達の生涯教育  
は一人ひとりの責任です。しかし、養成と言  
っても司祭が信徒を養成するとか、信徒が司  
祭を養成するとか、神ご自身によって自ら創  
りかえられると、又各自がその神の働きに応  
じて、自分を変えていくという部分を強調す  
べきです。

勿論、霊的な良き牧者としての聖職者や、  
人生の良き先人として、信徒の指導者の忠告  
を軽んじるということではありません。この  
養成には、自らの自発的成長への努力と、気  
の恵みあふれる導きに対しての従順が、まず  
求められるということです。個人の祈りの生  
活を大事にしながら、私達の洗礼の召命と使  
命を果たしていきましょう。

最後にヨハネ・パウロ2世パパ様の使徒的  
勧告の中から、少し抜粋したいと思います。

「信徒は、小教区での使徒的活動に献身する  
特別な意義を、もっと強く確信すべきです。  
信徒は自分の司祭と親しく一致して、小教区  
の中で働く週間を身につけるべきです。自分  
が所属する小教区の使徒的、布教的なすべて  
の仕事には、出来る限りの協力を惜しむべき

ではありません。・・・現在の状況において、  
信徒の力で実践できることが沢山あります。  
洗礼を受けていない人や、信仰を捨てたり、  
キリスト者としての生活をあまりしていな  
い信者への宣教熱意を信徒に目覚めさせる  
為に、小教区に於いて、真の教會的交わりを  
育てなければなりません。・・・各自が使徒  
職を果たして行く時、福音は一層広範囲に広  
まり、信徒一人ひとりが日常生活を営んで  
いる場所に届きます。信徒の生活が一つである  
時、福音は絶えずまっけて行くのです。信徒は  
兄弟・姉妹・友人・同僚の心をつかみ人間存  
在の意味、つまり、神と人との交わりに、彼  
らの心を開くことが出来ます。そのような時、  
福音は確実に広まるのです。」

皆さん、一緒に前に進みましょう！

中村神父の講演	・・・	2・3面
ペルーからのメッセージ	・・・	2面
侍者に始まった信仰生活	・3・4・5面	
パウロの歩いた道	・・・	6面
教会学校のページ	・・・	7面
お知らせ	・・・	8面



## 8.10の平和の集いにおける中村神父の講演 (要旨)

今年は、福岡で「正義と平和の全国集会」が催されることは、時のしるしと感じられます。今年、私は50歳になります。丁度その50年とは、カトリック教会にとっても大切な年月でした。50年前というと、1962年から始まった第2バチカン公会議の実施で、その大きなテーマは教会の現代化でした。それまでは、教会が現代の社会と離れてしまっていました。一生懸命にお祈りして、内面的に目をつぶり、教皇は不可謬でした。第2バチカン公会議からは、社会に対して開かれていかないといけないとされました。第2バチカン公会議の決定は**4つの柱**から出来ています。

**(1) 典礼憲章：(典礼の刷新)** 公会議前のミサはラテン語でした。司祭は祭壇の向こうで、会衆に背を向けラテン語で祈り、侍者とラテン語で「ミサ答え」といわれる応答をしていました。典礼奉仕は司祭のもとで行われていましたが、公会議以来、ミサは自分の国の言葉で行われるようになり、信者もミサの中で奉仕するようになりました。他にオルガン奉仕、ミサを信徒と一緒に、共に自発的に行うようになりました。

**(2) 教会憲章：** 公会議前は、教会は教皇、司教、司祭、信徒と、位階制が強調されていました。それは16世紀、プロテスタントから、カトリックを守る一貫として、その必要があったため、位階関係がどうしても強調されました。ヒエラルキーの中で、上から変えられる。そこでは、聖書を自由に読ませない。信者に勝手な解釈をさせないなどがありました。

しかし教会憲章によって、教会は神の民とされました。従って神の民は平等。誰が上、誰が下はない。ただ、その中で、たくさん人が集まるとどうしても役割が生ずる。それでも、みんな平等で活動的になる。その中で、言われるのが信徒使徒職。それまでのように、司祭から言われたことを黙ってする信者でなく。独自の信徒の使徒職がある。そこに、よく言われるように、3つの職。預言職、王職、祭司職があります。(これについては省略)

**(3) 「神の 계시に関する憲章」：** 神のことばに示された憲章。特に、聖書のみ言葉が大切にされています。

**(4) 現代世界憲章：** かつては、教会と社会は別だった。聖俗二元主義。ミサが終わり、家に帰ると終わり、週日に社会に出ると、そこは別の社会と言った状態、それは間違いであり、教会は社会と共に行きている。だから、教会はいろんな活動をしていく。その1つが、正義と平和全国集会です。実際、教皇が、正義と平和協議会を設置しなさいと言ったのです。教会は変わっていきます。

**4つの憲章は、典礼憲章から始まり、現代世界憲章で終わります。**

典礼＝教会の典礼は命の中心のミサ、そこから力を頂いて、社会に向かって行くということは、教会が社会に出てゆくことです。(それまでは、籠っているものだった)

大きな変化は1981年にあった教皇ヨハネ・パウロ2世の来日です。私は高校3年生でした、学校を休んで行きました。

その当時、彼は充実した若い教皇様でした。世界に福音を告げて廻り、空飛ぶ教皇と言われました。教皇が日本に来られたとき、日本の司教団に言われたことは3点あります。これは今、実現に向かっていきます。福音、平和の活動、殉教者の列福でした。

ヨハネ・パウロ2世の訪問地は、東京、長崎、広島の大都市でした。そして、この3都市にこの3点を託されました。

- ①東京は人口が多い。ここで福音宣教をなささいと言われました。
- ②広島では、平和メッセージを作った。それを受けて日本で平和旬間が出来た。
- ③長崎は殉教者の地、殉教者を列福しなさいと言われました。

今の時代も信者として生きるのが難しい時代です。そこで、いかに当時の殉教者が信仰を証していたのかを知る価値があるのです。

教皇の「福音宣教をなささい」は、この言葉を受けて日本の教会は動きました。司教団はナイスを提案。1981年、以降84年に検討、開催は87年でした。その開催のため、その前に、沢山の信者が集まって公聴会が行われました。今までのカトリック教会では、教区でやることは司教評議会でも審議し上から下へとする、上意下達となっていました。

この結果、日本の教会の優先課題が決められ、「開かれた教会」が次のテーマと課題とされました。なおナイスの考え方による制度改革チームができました。例えば信徒数はたった40万なのに16の教区。教区数は多すぎ、改定を要するのではとの議論がなされたが、いつの間にか断ち切れている。丁度、国会議員も自分のこととなると議員数を減らせないと同じではないでしょうか。

以降、1995年の阪神大震災。ここで生まれた言葉が、ボランティア元年。ここでの大阪教区の教会の動きに注目すべきです。この時の大阪教区は、自分たちの教会の再建は後回しにし、ボランティアのセンターとなることこそ大切と考えて活動をしました。

2001年には、「いのちのまなざし」というメッセージが発行されました。昔の教会では、掟に背いた人に冷たかったし、自殺をした人は葬儀ができませんでした。そのような冷たい教会から、温かい教会に変わってきています。

そして、2011年の東日本大震災。ここで、オールジャパンという標語が生まれました。そのとき、復興のボランティアが、見捨てられた人を一緒に助けることになりました。

大阪教区の若い人の志は、神のはたらきの導き、時のしるしの導きがあった。長崎の永井博士は、浦上という信者の多いところで、共に原爆を受けた。イエスの生贖を他の人と一緒にわかちあい心の再生があった。心の、再生の働き。そこで、自分たちの生き方を見なおさないといけない。それから原発事故。いつのまにか3年過ぎましたが、私たちの生活は消費主義に流されてはいけない。取り残された人が生きている。生活のレベルを落としても助けあうべきだと、苦難を示されたイエス、そのとき示された神からの回心、私たちへの信頼、キリストの死と復活にあずかること。これが私達の生き方です。

# 委員会等報告

2014年8月分

2014年 8月水巻教会小教区委員会 8月3日(日)

## 1. 全委員会の議事録確認

特に確認事項なし。

## 2. 先月の行事報告

### ●6月・7月の行事報告

- ・6月15日(日)大人の日曜学校
- ・7月20日(日)子どもの集い

各々約40名参加

### ●これからの行事予定

8月10日(日)平和の集い 小倉教会  
現在12名参加予定 バス手配

## 3. これからの活動予定

- ・9月7日(日)敬老のお祝い会(75歳以上)  
ミサ後お祝い会  
昨年と同様の内容を準備。担当：上川さん
- ・9月13日(土)～15日(月)福岡カテドラルで「正義と平和」全国大会  
参加予定7名
- ・9月21日(日)信徒協聖書講座(小倉教会)14時～16時30分 牧山三好神父
- ・9月26日(金)ホームレス炊き出し 10時教会集合 ご協力お願いします
- ・9月28日(日)パウロ会販売予定

## 4. 議題

敬老のお祝い会 活動予定を参照。

## 5. 各委員会・地区から

- 納骨堂委員会より：梁瀬氏より未払いの管理料の支払いがあり、納骨堂3部屋の返還があった。
- その他の報告：教区の日(11月24日

(日))の参加者について、昨年までは小教区からの参加が3～4名と絞られていたが今回から自由参加となった。(何名でも参加可)

## 6. その他

### 議題：聖堂補修工事について(長時間に及び要点を簡単に整理)

Q：聖堂補修工事の為の部会立ち上げを要望していたのに7月27日(日)に唐突に工事の話が発表されたのは納得がいかない。どのような経緯で話が進められたのか説明があるべきではないか。

A：メンバーの選定は、紛糾、混乱を避けるために水面下で行った。

見積書については、去年から今年にかけて4社の見積もり(再見積もり)を行い、その中から今回の檜塗工店に決定した。検討経過はまとめて報告する。これまでの経緯を簡単にまとめると昨年外壁塗装の件が挙がり、専門業者に有償で調査を依頼、その結果を軸にして、小教区委員会、地区集会などで改修検討し、5月に信徒総会で承認を得た。時期は、次の内容を総合的に判断して、夏休みに工事することとした。

- ・幼稚園(幼稚園児)に迷惑をかけない。
- ・工事資材、作業員の関係(業者間で関東、東北での工事が本格化すれば職人の不足や足場の確保等様々な問題)
- ・福岡司教区へも説明を行い、工事許可

を得ていた。

部会とその対応については、我々の説明不足で混乱を招いたことは、反省する。

**Q:**先週の聖堂での話の中で部会のメンバーについて知識がないと馬込氏が発言した件

**A:**彼らに知識がないとは、一言もいってない。彼らの人となりや12年の間見てきたが、自分なりに彼らの人間性もよく分かっているつもりです。彼らをそのような目で見ただけではありません。誤解の無いように言いたい。

**Q:**補修工事に関して費用を駐車場献金から出すことは、問題ではないか

**A:**教区の財布は1つなので、その方向性を回答した。駐車場献金から支払うかは、検討する。ただし、駐車場、営繕のどちらから支払っても結果的には同じであることを理解して欲しい。

**Q:**聖堂の屋根についてフッ素樹脂は塗装ができないはずなのに、その見積もりになっているのはおかしい。

**A:**業者から「メーカーに確認したところ、部分補修を行った方がいいと指導があった」ので部分補修を行う。現状では、全塗装を施した方が将来的に問題が起きる可能性があるかと判断した。

**神父様から一言:**去年、一人の信者から外壁の傷み具合がかなり進んでいると指摘があり、そこから外壁塗装の話が始まった。昨年、委員会で検討を重ねて今年の夏に工事を行う方向で話を進

めていた。4月に新しい委員会が発足して部会の話が出たがその時に今までの話合いが、無駄にならないかと私は話したがそれについては、きちんと返事が返ってこなかった。今までのプロセスをなぜ無かったことにするのか、理解できない。また担当者は、今まで営繕委員の活動を行ってきた経験を考え、田中氏、久保園氏を選出した。リーダーシップという点からもメンバーを信用し、任せて、承認するというのを考えて欲しい。

**Q:**この中で今回の工事について再度検討した方がいいと思われる方は拳手を求めた。

**A:**4名拳手あり。(参加委員:19名)

**Q:**金額について高いと感じたので他の業者に見積もり依頼をお願いしたところ450万でできると返事があった。

**A:**今、この見積もりを出すのは、おかしい。去年から必要書類は開示するので、見積もりを出して下さい。とお願いしたのになぜ今になって見積もりを出すのか。現に今年の2月に見積もりを出した方も居る。また、450万の見積書は見ることができなかったので処理。

#### **議題: 委員長の選出について**

**Q:**水巻教会では小教区委員長は公選となっているが事前の報告がきちんとなされなかったのではないかと感じました。いきなり浜口氏が指名された感があり、おかしいと感じました。

**A:**意見として伺う

## 聖堂補修工事について 部会長 濱口

## 1、これまでの経緯

- ・信徒総会で工事の承認を得て、部会を立ち上げる方向になった。
- ・部会を7月に立ち上げ、業者を含め工事日程を検討した。
- ・幼稚園児に怪我等与えない工事の進め方を検討した

## 2、工事日程

8月4日着工

## 3、工事業者

檜塗工店

⇒4社の金額、内容を比較見積

## 4、工事金額

見積額 . . . 7,022,000円

## 5、工事範囲

- ・聖堂屋根、聖堂壁面、スロープ、幼稚園側階段、聖堂玄関

## 6、工事内容

方針：10年は大丈夫な全面補修を行う

- ・聖堂屋根 . . . 錆落とし、錆止め、補修、雨とい交換(道路側)
- ・聖堂壁面 . . . 洗浄、コーキング、下地調整、ひび割れ補修、全面塗装
- ・スロープ . . . 洗浄、コーキング、塗装、隙間埋め
- ・幼稚園側階段 . . . 洗浄、コーキング、塗装、隙間埋め
- ・聖堂玄関 . . . 軒の改装、塗装、補修

**図書係からの案内**

新しい図書（シスター渡辺和子さん著）が入りました。是非、お読み下さい。  
行方不明の図書がたくさんあります。本の番号を以下に掲載します。お気づきになられたら返却して下さい。

B13、B47、B70、B87、B97、B100、B103、B110、B111、B112、B114、  
B120、B149、B150、B154、B161、B170、B172、B174、B182、B185、  
B193、B195、B201、B208、B209、B219、B223、B225、B226～231、  
B233～266、B279、B298、B320、B325～329、B418、B419、B420～  
441、B456、B468

## Maria Taki 保育園 “イエスの愛” 子供食堂の現状報告



水巻教会の皆様には、いつもペルーの貧しい子ども達のため、とりわけマリア・タキ保育園の子ども達のために、惜しみない、継続的なご支援をありがとうございます。前回2011年にシスター古川が報告に伺いましたが、その後の報告をいたします。

2011年1月、マリア・タキ保育園が、パンプロナ・アルタからサン・ガブリエルへ移転しました。この土地は教区のもので、新園舎建設されるまでの間、保育は元巡回教会の建物とその向かいにある巡回教会とを仮の園舎として使用しました。

2011年3月に工事開始。8月に第1期工事終了。この段階で園舎の一棟が完成。11月に第2期工事が開始。2棟目の園舎の建設が開始され、2012年2月、園舎と入り口付近のスロープが完成しました。

2012年3月、新学期が始まりましたが、新園舎ができたところで、まだ使用することができず、続けて仮の園舎での保育が始まりました。

2012年4月2日、子供食堂が始まりましたが、調理室がないので、調理人のおばさんの家で調理されたものを保育園に運び込むことになりました。

2013年3月、1年待って、ようやく第3期工事を開始。まず、園庭の整備が行われました。調理室も、面積を通路部分まで拡張しました。この工事のために、2011年から貯めていたレプトン会からのご支援金(約40万円)を使用させていただきました。

安全面と便利さを考えて、扉を両側につけ、壁に換気と明かり取りのための窓を取り付けました。冷蔵庫は、前に使っていたものを持ってきました。ガスコンロは、レプトン会からのご支援金(約33,000円)で購入させていただきました。

これらの工事を経て、2013年6月7日、保育園の落成式が行われました。日本大使館やカリタスペルーからの代表者が訪れ、除幕式が行われました。司教総代理であるアマデオ神父様より建物の祝別が行われ、続いて園児達による旗体操や民族舞踊が披露されました。

現在、2名のシスターが保育園で、他に1名のシスターが子供食堂の責任者として働いています。2名のシスターは、リマの中心部にあるヘスス・マリア修道院から、バスで約2時間の道のりを毎日通っています。バスは保育園のある山の麓までしかないので、バス停からはモトタクシーというものを利用しています。

保育園の入り口脇には、少しでも緑を増やそうと、日照りに強い植物の苗を植えています。内部には、夜間に泥棒や侵入者がないように見張る、警備員さんのための宿舎もあります。

子ども達の家には、まだ水道が通っていない地域もあり、どうしても衛生面がおろそかになりがちなので、保育園では、食後の歯みがき、遊んだ後の手洗い、帰る前の身だしなみを整えるなど、良い生活習慣を身につける事を学びます。(8ページ下へ続く)



# 9月のおしらせ

## ★敬老お祝い会★

日 時：9月7日(日) ミサ後

場 所：水巻教会 信徒会館

今年も敬老のお祝い会をします。お手伝いできる方は、ご協力ください。

## ★ホームレス炊き出し支援★

日 時：9月26日(金) 10時より

場 所：水巻教会 信徒会館

多数の方のお手伝いをお願いします。

## ★正義と平和全国集会★

日 時：9月13・14・15日

場 所：カテドラル大名町教会

テーマ：いのちを大切にする社会を

めざして

一見て、聞いて、知って、働くー

38回目を数えるこの集会が、今年初めて福岡の地で開催されることとなりました。たくさんの方の参加をお待ちしています。

## ★パウロ会の販売★

日 時：9月28日(日)



## 【帰天】安らかに！

7月30日

◇花浦 フミ子さん(中間地区)

## 【転入】ようこそ！

◇本田 かおりさん

名古屋教区各務原教会より芦屋地区へ



(7ページから続き)

頭にシラミのいる子もいて、シスター達がケアしたりしています。

保育園移転当時は園児4名でしたが、現在は64名、そのうち昼食を保育園で食べるのは、日によってかわりますが、22~24名です。普通保育の子は12時に親が迎えに来て帰って行きます。残った子ども達は、しばらく各クラスで時間を過ごします。そこで、先生の手伝いや掃除、昼食の準備の手伝いを学んでいきます。1時、待ちに待った昼食です。

現在、子供食堂で調理婦さん1名に働いてもらっています。毎日3時間で、給料が月250ソレス(約8,750円)。このお金もレプトン会からのご支援金で支払っています。

貧しい地域で働く母親達を支援するため、パンプロナ・アルタで始められたマリア・タキ保育園と子供食堂。この精神は、移転先のサン・ガブリエルにおいても継続されています。いつもこの子ども達のために、心を配り、ご支援してくださる水巻教会レプトン会の皆様に、心から感謝をしています。ありがとうございます。

イエスのカリタス修道女会 シスターマリア・ステッラ小林